

平成23年霧島山新燃岳噴火に関する緊急調査研究の概要

しんもえだけ

緊急性・必要性

- 平成23年1月26日以降、鹿児島・宮崎県境の霧島山新燃岳で、本格的なマグマ噴火が発生。
- 多量の火山灰の放出による航空機の欠航や農作物等の被害、爆発的噴火に伴う空振による建物被害が発生。
- 火山噴火予知連絡会の見解によれば、活発な噴火活動が続いており、**当分の間は、現在と同程度の溶岩を吹き飛ばす爆発的な噴火を繰り返す**と考えられている。
- 新燃岳の火山観測については、これまでも大学や防災科研等が実施しているが、**現在の観測体制では火山噴火の直前把握等の推移予測研究を実施するには不十分**である。

科学技術振興調整費による緊急調査研究

研究代表者：独立行政法人 防災科学技術研究所 

① 噴火推移把握のための観測研究

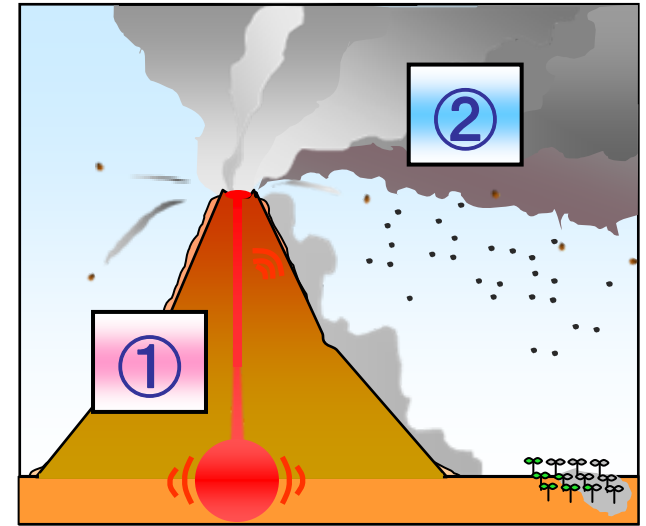
無人航空機を用いた地震計(10台)及びGPS(3台)の増設・観測、
「だいち」等による地形観測

＜実施機関＞(独)防災科学技術研究所、東京大学地震研究所

② 噴火現象の観測及び火山灰等の拡散予測研究

遠隔観測(レーダー、カメラ)、直接観測(無人機等による噴煙データ取得)、
火山灰のシミュレーション研究等

＜実施機関＞(独)防災科学技術研究所、東京大学地震研究所、
(独)産業技術総合研究所、気象庁気象研究所



成果の活用

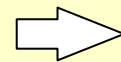
○霧島山新燃岳の噴火に対する防災対策等への貢献

噴火活動の直前把握

→ 噴火情報の事前提供

噴火に伴う降灰分布の詳細予測

→ 高精度な降灰情報の提供



噴火・土石流被害の軽減

○全国の火山噴火における推移予測研究の進展に貢献

研究成果をとりまとめの上、CSTPIに報告予定。